

AMSR3 Data Viewer FAQ

符号	日付	改訂記録	備考
初版	2025/1	初版発行	

目次

1	はじめに	1
2	FAQ	1

1 はじめに

本書は AMSR3 Data Viewer（以下、本アプリケーションと称する）の FAQ です。

2 FAQ

① 本アプリケーションの主な使用目的は何ですか？

本アプリケーションは、GOSAT-GW(温室効果ガス・水循環観測技術衛星)に搭載された AMSR3(高性能マイクロ波放射計 3)の観測データを地図上にマッピング表示するアプリケーションです。

② 本アプリケーションはどのような環境で利用できますか？

本アプリケーションは、Windows10/11、MacOS 14、Linux（Red Hat 9、カーネル 5.14 相当）の環境で利用できます。

③ 本アプリケーションで利用可能なプロダクトは何ですか？

本アプリケーションでは、GOSAT-GW に搭載された AMSR3 の観測データが利用できます。対象プロダクトを表 2-1 に示します。

表 2-1 対象プロダクト一覧

処理レベル	表示プロダクト		地図上マッピング表示内容	フォーマット変換	動画出力	
	コード	説明				
L1A	DNA	カウント値 (1A)	RGB/疑似カラー画像	バイナリ CSV 画像 NetCDF KML/KMZ	AVI	
L1B	TBB	輝度温度 (1B)				
L1R	TBR	リサンプリング輝度温度 (1R)				
L1H	TBH	高解像度輝度温度 (1H)				
L1C	TBC	中心位置補正済輝度温度 (1C)				
L2	TPW	積算水蒸気量				
	CLW	積算雲水量				
	PRC	降水量				
	SST	海面水温				
	SSW	海上風速				
	ASW	全天候海上風速				
	SIC	海水密接度				
	HSI	高解像度海水店都度				
	SMC	土壌水分量				
SND	積雪深					
HST	高解像度海面水温					
L3	輝度温度	TL1	輝度温度 6.925GHz	疑似カラー画像	バイナリ CSV 画像 KML/KMZ*1 (*1 SIMを除く)	AVI KML/KMZ*2 (*2 EQRデータのみ)
		TL2	輝度温度 7.3GHz			
		TL3	輝度温度 10.25GHz			
		TL4	輝度温度 10.65GHz			
		TL5	輝度温度 18.7GHz			
		TL6	輝度温度 23.8GHz			
		TL7	輝度温度 36.42GHz			
		TH1	輝度温度 89.0GHz			
		TH2	輝度温度 165.5GHz			
		TH3	輝度温度 183.31+/-3GHz			
		TH4	輝度温度 183.31+/-7GHz			
	大気	TPW	積算水蒸気量			
		CLW	積算雲水量			
		PRC	降水量			
	海洋	SST	海面水温			
		SSW	海上風速			
		ASW	全天候海上風速			
		HST	高解像度海面水温			
	極域	SIC	海水密接度			
		HSI	高解像度海水密接度			
		SIM	海水移動ベクトル			
	陸域	SMC	土壌水分量			
		SND	積雪深			

④ HDF5 形式のファイルは利用できますか？

申し訳ありませんが、本アプリケーションでは HDF5 形式のファイルを利用することはできません。代わりに、NetCDF 形式のファイルが利用可能です。

- ⑤ 本アプリケーションで利用可能なプロダクトはどこから入手すればよいですか？
本アプリケーションで利用可能なプロダクトは G-Portal (URL : <https://gportal.jaxa.jp/gpr/?lang=ja>) から入手できます。
- ⑥ NetCDF 形式に変換した AMSR/AMSR-E/AMSR2 の各プロダクトは利用できますか？
申し訳ありませんが、本アプリケーションでは NetCDF 形式に変換した AMSR/AMSR-E/AMSR2 の各プロダクトの利用はできません。
- ⑦ 複数のプロダクトを一度にライブラリに登録する方法はありますか？
ファイルエクスプローラ上で複数のプロダクトを選択し、本アプリケーションにドラッグアンドドロップすることで、一度に複数のプロダクトに登録することができます。

⑨ 地図に表示するデータセットを変更することはできますか？

L1 プロダクトで表示するデータセットを変更する場合は、config フォルダ内の mapColorSetting.ini および mapColorSettingDefault.ini ファイル内の表 2-2 に示している部分を修正してください。

L2/L3 プロダクトで複数のデータセットが格納されている場合、プロダクト一覧部の「データセット」欄のコンボボックスを選択することで表示データセットを変更することができます。

表 2-2 L1 プロダクト 表示データセット

セクション	キー	説明
L1_X (X:0~4)		L1 プロダクトのカラー定義セクション
	DatasetR	RGB 合成表示時の赤 (R) に割り当てるデータセット名
	DatasetG	RGB 合成表示時の緑 (G) に割り当てるデータセット名
	DatasetB	RGB 合成表示時の青 (B) に割り当てるデータセット名
	DatasetS	疑似カラー表示用のデータセット名
	LatR	DatasetR に対応する緯度データセット名
	LatG	DatasetG に対応する緯度データセット名
	LatB	DatasetB に対応する緯度データセット名
	LatS	DatasetS に対応する緯度データセット名
	LonR	DatasetR に対応する経度データセット名
	LonG	DatasetG に対応する経度データセット名
	LonB	DatasetB に対応する経度データセット名
	LonS	DatasetS に対応する経度データセット名

⑩ 地図に表示できるプロダクトの上限はありますか？

地図表示部に一度に表示できるプロダクトは最大 10 個です。もし、表示上限数を変更したい場合は、config フォルダ内の userApp.ini ファイル内の表 2-3 に示されている部分を変更してください。

表 2-3 同時表示プロダクト数設定

セクション	キー	説明
Common		共通定義セクション
	viewProductNum	同時表示可能プロダクト数

⑪ 領域選択モードの使用目的は何ですか？

領域選択モードを使用すると、選択した範囲内でバイナリ（raw データ）ファイル、CSV ファイル、画像ファイル、KML（KMZ）ファイルへの変換を行うことができます。

⑫ プロダクトの地図表示時に使用されるカラーテーブルを変更する方法はありますか？

「表示設定」メニューから「カラー設定」を選択し、カラー設定画面を表示してください。

カラーテーブルの表示を変更するために、対象となるプロダクトの処理レベルとコードを選択します。L1 プロダクトでは、RGB 表示または疑似カラー表示を選択することができます。一方、L2 および L3 プロダクトでは、疑似カラー表示の設定が可能です。

RGB 表示では、表示バンド（RGB）設定部の「編集」ボタンをクリックすることで、表示するプロダクトデータの値の範囲を設定することができます。（図 2-1 参照）



図 2-1 カラー設定画面（RGB 合成表示設定）編集

疑似カラー表示では、疑似カラー設定部の「編集」ボタンをクリックすることで、表示するプロダクトデータの値の範囲を設定することができます。（図 2-2 参照）また、本アプリケーションのデフォルトカラーテーブルでは、色の割り当て部内でカラーテーブルの表示を変更することができます。さらに、「インポート」ボタンをクリックすることで、cpt-city (<http://soliton.v.m.bytemark.co.uk/pub/cpt-city/views/totp-cpt.html>) のカラーパレットを読み込むこともできます。ただし、外部カラーパレットを読み込んだ場合は、カラーパレットの変更はできません。

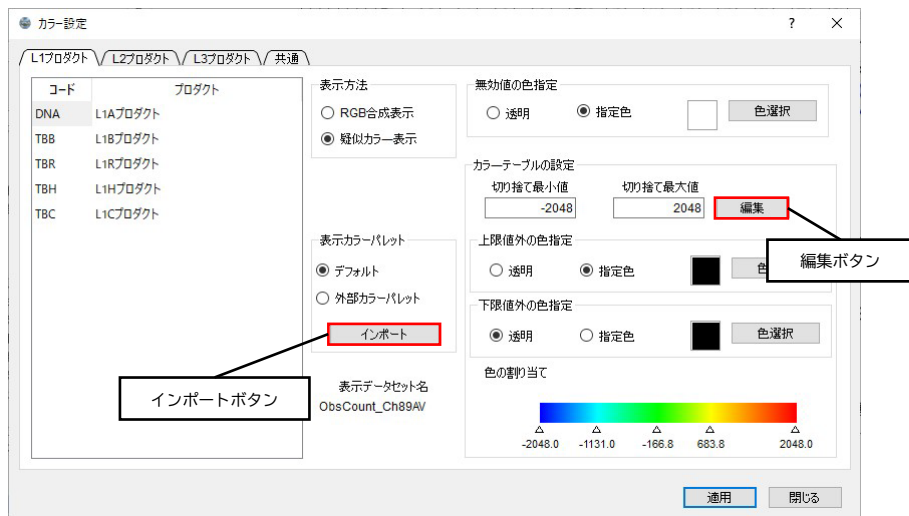


図 2-2 カラー設定画面（疑似カラー表示設定）編集

⑬ カラー設定をデフォルト状態に設定する方法はありますか？

「表示設定」メニューから「カラー設定」を選択し、カラー設定画面を表示してください。

RGB 表示時は図 2-3 に示す「デフォルト値」ボタンをクリックすることで、切り捨て値の範囲をデフォルト状態に戻すことができます。



図 2-3 カラー設定画面（RGB 合成表示設定）デフォルトボタン

疑似カラー表示時には、図 2-4 に示されている表示カラーパレット部の「デフォルト」ラジオボタンを選択することで、カラーテーブルの設定をデフォルト状態に戻すこ

とができます。

ただし、保存前のカラーテーブル設定は保持されませんので、注意してください。

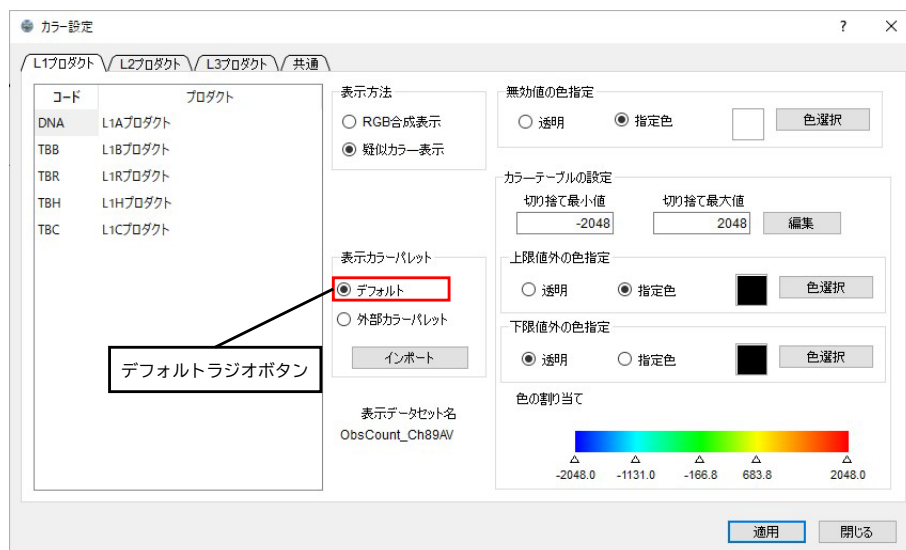


図 2-4 カラー設定画面（疑似カラー表示設定）デフォルトボタン

- ⑭ 本アプリケーションを複数同時に起動しても問題はありませんか？

問題ありません。ただし、CPU やメモリの利用率によっては、動作が遅くなる可能性があります。